

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 85人

② 算数 85人

5 留意事項

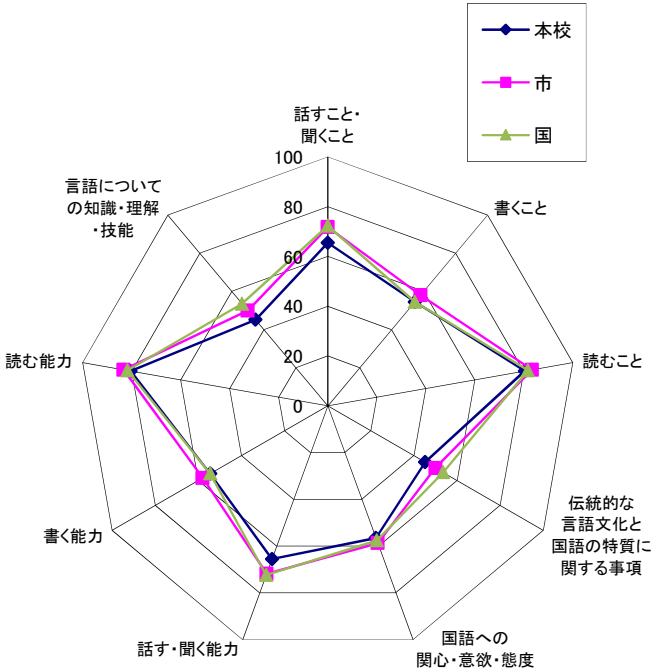
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	65.5	71.8	72.3
	書くこと	54.5	58.0	54.5
	読むこと	80.4	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	45.2	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	56.5	58.7	57.6
	話す・聞く能力	65.5	71.8	72.3
	書く能力	54.5	58.0	54.5
	読む能力	80.4	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	45.2	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

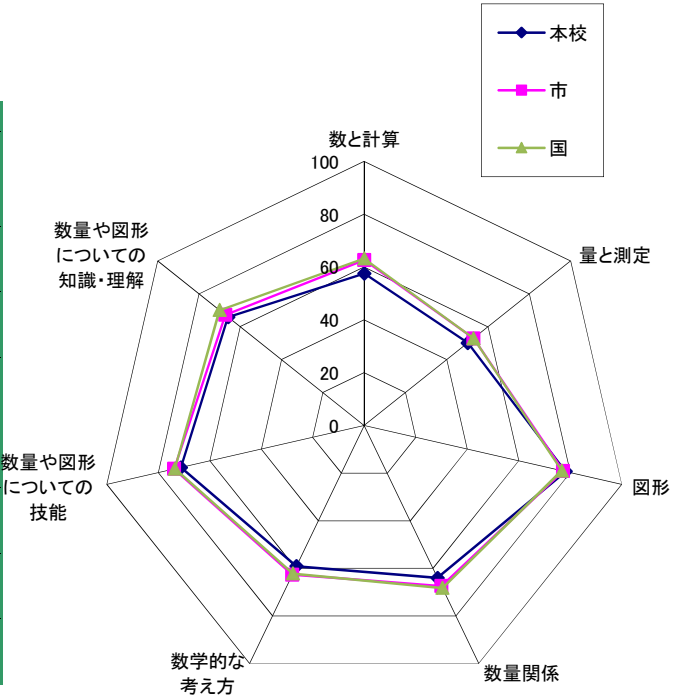
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国、県の平均を下回った。特に、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」問題では、国の平均より約7ポイント、県平均より約8ポイント下回り、無回答率は14.1%となった。	・相手の意図をくみ取りながら話を聞いたり、疑問に思ったことを質問したりして明らかにする経験を積み重ねるために、話し合う機会を多く設定していく。 ・話し合いの中で、自分の考えを持ち、伝えるだけでなく、友達から自分の考えを深める話し合いを重視していく。 ・学習の振り返りを自分の言葉で表現させる。
書くこと	○国の平均とほぼ同じ正答率であった。 ○「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題では、国と県の平均を約1ポイント上回った。 ●「情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」問題では、国の平均より約1ポイント、県の平均より約3ポイント下回った。	・字数制限の中で、自分の考えをまとめることができるようにするための、機会を設けていく。 ・国語科の「書く」単元では、特に丁寧に指導し、文章を読む人を意識して「書く」ことができるよう指導する。 ・書いた文章を読み直したり、友達同士読み合ったりすることで文章構成についての理解を深めさせる。 ・理由を述べながら話したり、根拠をもとに文章で表現したりする機会を設定する。
読むこと	●国、県の平均を下回った。 ●「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」問題では、国の平均より約4ポイント、県の平均より約6ポイント下回った。	・意見文や資料に基づいた文章を読む場合には、自分はどう考えるのか、経験などをもとに自分の考えを話したり書いたりする機会を設ける。 ・国語の授業の中で文書の大事な部分に線を引くなどして、資料と結びつけながら文章を読む練習をする。 ・様々なジャンルの文章を読む機会を設けたり、本の紹介をさせたりする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国の平均を約8ポイント、県の平均を約5ポイント下回った。 ●「かんしんをもってもらいたい」という文の「かんしん」を正しく漢字にして使う問題では、回答率が約15%で、国の平均より約20ポイント、県の平均を約16ポイント下回った。その他の漢字や接続語の問題については無回答率が約12.5%であった。	・言葉の意味や使い方を理解させるために、国語辞典を活用する機会を設ける。 ・接続語を使った短文作りや新出漢字を使った熟語を集める学習を行って語彙力を伸ばす。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.6	62.7	63.2
	量と測定	50.2	52.9	52.9
	図形	78.2	77.3	76.7
	数量関係	64.0	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	59.1	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	71.2	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	65.9	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「複数の数量から必要な数量を選び立式する」問題の正答率が68.2%で、県の66.7%を上回った。 ●「計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を記述する」問題の正答率が22.4%で、県や国より約10ポイント低かった。 ●「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」問題では、正答率が49.4%で、県より8.4ポイント、国より10.7ポイント低かった。	・毎週金曜日の朝学習「算数チャレンジ」の時間や少人数指導や習熟度別学習等を活用し、様々な計算問題を繰り返し復習し、内容の定着を図る。 ・授業の中で問題解決の場面を多く取り入れ、自分の考えを記述する時間を十分に確保するとともに、プリント等の補助教材を活用して様々な内容の問題の演習量を増やすようにする。
量と測定	○「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を記述する」問題では、県や国と同程度の正答率であった。 ●「場面の単位量当たりの大きさを基に求め方と答えを記述し結果から判断する」問題では、県、国の平均よりも約3ポイント下回った。	・問題場面や状況をもとに必要なことを順序立てて整理できるよう支援したり、整理したことをもとにどのように考えたと良いか簡単に思考の道筋を示したりすることで、問われている内容に応じて判断、思考できる力を高められるようにする。
図形	○「台形についての理解度を問う」問題では、県、国の正答率を約3ポイント上回った。 ○「図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する」の問題では、県、国の正答率を約1ポイント上回った。	・具体物を用いた算数的な活動に取り組む時間を十分に確保し、図形についての感覚を豊かにできるよう支援する。
数量関係	○「棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る」問題では、県、国の正答率を約3ポイント上回った。 ●「示された除法の式の意味の理解を問う」問題では、県を4.5ポイント、国を10.5ポイント下回った。	・問題解決の見通しやそれぞれの過程での考え方を丁寧に確認し、理解力や思考力の向上を図る。 ・習熟度別学習などで児童の実態に応じて読解力や思考力を要する教科書巻末の問題などを取り上げ、適宜支援しながら課題解決に向けて努力させる。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家の人と学校のことを話している児童が71.3%と良好で、先生から認められていると思っている児童、自分にはよいところがあると思っている児童の肯定的回答も80%を超えている。
○夢や目標を持っている児童、ものごとを最後までやり遂げて達成感を味わったことのある児童の肯定的回答が、ほぼ90%を占める。
○公德心・規範遵守の意識が高く、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と答えている児童が98.8%を占める。
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできるかの肯定的回答が80.5%であり、授業で学んだことを他の学習に生かしている児童も9割を超えている。
○道徳の授業で自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいるという肯定的回答が87.4%を占める。
○「国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」への肯定的回答は、それぞれ98.1%(国語)、95.4%(算数)を占める。
●規則正しい生活(朝食をとる、同じくらの時間に起きたり寝たりする)が、全国や県と比較するとやや低い。
●学校の授業以外の1日の学習時間は、1時間以上2時間未満が51.7%で一番多い。2時間以上勉強する児童の割合は23%で、全国や県と比較して低くなっている。
●「読書は好き」という肯定的回答は75.8%と全国や県とほぼ同じだが、1日当たりの読書時間が30分未満の児童が63.2%おり、図書室や図書館の利用率も毎週利用している児童が9.1%で全国17.2%や県18.3%と比較して低い。

指導上の工夫

- ・全教育活動を通し、一人ひとりの「よさ」や「持ち味」を生かし、認め励ます関わりを全職員が心掛ける。また、うまくいかなかったことが学びや次の成功体験につながるように支援する。そういった関わりの中で、児童の回復力(レジリエンス)を高め、自己有能感や自己肯定感を醸成する。
- ・いろいろな機会をとらえて話し合い活動をさらに充実させるとともに、自分の意見の発信力をさらに高めていく。その際、合わせてICTの活用を指導する。
- ・マッチョマンカードの取り組みを通して、基本的な生活習慣、公德心、規範遵守の意識がさらに高まるようにしていく。
- ・チャレンジタイム、授業の隙間時間などを活用し基礎基本の定着を図るとともに、学習の仕方を指導して自主学習の充実を図る。
- ・図書委員会の活動で楽しいイベントを考えたり、読み聞かせボランティアとの連携を図ったりして、図書館利用の推進を図る。
- ・児童の良さを積極的に保護者に発信する活動を通して、規則正しい生活、家庭学習、家庭での読書などへの協力を仰ぐ。

宇都宮市立御幸が原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進	子どもたちにとって高い課題を設定し、グループ活動や学級全体で協働的な話し合いをもつ問題解決的な授業づくりを進めている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は80.5%で、国の肯定的割合を6.1ポイント上回っている。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	算数では、単元に応じて、少人数学習、習熟度別学習、TT体制で授業を行っている。 火曜日と金曜日の朝の学習の時間には、担任を持っていない教員も各学年で個別指導を行い、国語と算数の学力向上を図っている。	基本的な知識や技能に関わる力は十分に身に付いているとは言えない。今後も授業における指導体制を単元ごとに検討し、指導内容を工夫していく。 また、朝の学習の時間における個別指導を継続していく。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間のめやすや家庭学習の内容を提示している。 自主学習帳の約束として、日付と取り組んだ時間、振り返りを記入し、保護者からサインなどをもらうことを学校で統一している。	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は83.9%で、国の肯定的割合を12.4ポイント上回っている。授業時間以外に1日当たり1時間以上勉強する児童は74.7%で、国の回答を8.6ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えをもち、表現する力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる場の設定、学習活動の工夫	国語では、どのように書くかと相手に伝わりやすいか、なぜそれがふさわしいのかなど、適切な記述の仕方を考えるように習慣付ける。 算数では、問題を解決するための見通しをもつことができるように教師が問いかけることで、必要な数量を見いだし、数学的に表現ができるようにする。